



## 数値化の鬼

### 「仕事ができる人」に共通する、たった一つの思考法

安藤 広大  
ダイヤモンド社  
(2022/3)

累計 3000 社以上が導入した「いま、最も人を成長させるマネジメント法」の識学メソッドがたっぷり詰った注目の一冊です！

#### 【感想】

タイトルに掲げられている『数値化の鬼』とは、「仕事ができる人」「急成長する人」の共通点を「物事を数字で考えられること」と定義付けをし、「物事を数字で考えられる」方法として、「現在不足している状況を知り、その不足を埋めるための行動をとること」としています。

本書では、上記のような数値化の鬼としての行動に至る思考法を掲載しています。その中でも、最も注目したい方法が「仕事ができる人になる5つのステップ」です。

#### 仕事ができる人になる5つステップ

- ステップ① 「行動量」を増やす
- ステップ② 「確率」のワナに気をつける
- ステップ③ 「変数」を見つける
- ステップ④ 「真の変数」に絞る
- ステップ⑤ 「長い期間」から逆算する

各ステップの説明が全5章に割り振られていて、具体的にどうすればいいかまでが、きちんと書かれていますので、自分がデキる人になるだけでなく、マネジャーとして、部下に適切な数値目標を与えられるようになるまでをフォローしており、実に有用な一冊です。

#### 【以下引用】

・昨今の SNS をのぞいてみればわかるように、「言葉」のほうがかつて過剰になりすぎています。それは誰でも簡単に使えるからです。一方で、世の中には「数字」が圧倒的に足りていません。

・数字は、「不足を見るためのもの」です。不足を埋め、次の行動を考えるための材料です。つまり、未来のための「手段」です。

・上司と部下の関係を正しく機能させるためには、「公平性」がとても重要です。誰が見ても公平で明らかな評価を、上司は部下に対して下す必要があるからです。  
それを可能にするのが、「数値化」です。売上が「いくら」なのか。改善行動が「何回」あったか。期限を「どれだけ」守ったか。

・KPI が多すぎたり、社内の変数が多かったりすると、余計なことを考える時間が増えてしまうのです。そこで必要なのが、「変数を捨てる」という考え方です。

仕事を売上や成約件数だけでなく、ミスした回数や業務改善回数を数値化することの重要性について語られているので、若手やベテラン問わず読んでいただければいい一冊です。